

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、事業所独自の理念を作成している	○ 全職員が地域密着型サービスの役割を完全に理解できる様にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週の朝礼時、職員で理念を復唱し理念の意味を理解し実践できる様に取り組んでいる。	○ 全職員が理念を理解し、日々のサービスに反映させていける様に取り組みたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者、家族が見やすい場所へ理念を掲示している。 入所時、利用者、家族に説明している。	○ 地域に対して説明会や広報を配布する等し、理念を理解してもらえる様に取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	入所者のプライバシーに配慮しながら近隣の人たちに気軽に立ちよれる様に働きかけている。施設の行事の際も近隣に案内を配布し、参加を呼びかけ交流を図っている。	○ 町内会、民生委員、老人クラブ等にも事業所を理解してもらえる様に働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果を基に改善策を検討し、今後より良いケアサービス提供につなげる様、努めている。	○ 外部評価のねらいや活用方法等を全職員に周知しているが、まだ理解は完全とはいえず、今後も努力したい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でも自己評価、外部評価の結果を公表し、説明している。それを基に改善策等についても報告し、意見交換を行うなどしている。	○ メンバーが積極的に意見をだせる様働きかけをしていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果を市町村に提出している。 広報誌、パンフレット等は配布している。	○ 利用者の利便性のためにも行政との連携を図り支援していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について理解を深める取り組みを行っている。	○ 外部研修への参加等を通し、全職員が理解できる様にしたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を未然に防ぐ様努めている。又、対応方法等がわかる様マニュアルが作成されている。	○ 全職員が、マニュアルを理解し対応していける様取り組みたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族に事業所の理念や方針や取り組みは説明している。 退居の際は十分に説明を行い用意を得て退去先の情報提供を行ない支援している。	○	契約時、説明はしているが、入所後も利用者や家族の疑問や意見を引き出す働きかけをしていきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が利用者の意見や苦情を出しやすい様に努めている。又、出された意見や苦情は検討し速やかに対応ができる体制が整えられている。	○	利用者が外部に意見等を話せる機会を作っていきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶり・健康状態は定期的に報告している。 又、利用者の金銭管理の状況、出納帳に記録し、領収書を添付して定期的に報告している。	○	職員の異動等については、家族には報告していない。話し合っていく必要はある。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情受付窓口を明示している。家族から出された意見や苦情等は日々のケアサービスに反映させていく取り組みを行っている。	○	家族が意見や苦情を話しやすい雰囲気作りを継続していきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時等に職員からの意見や要望等を聞く機会は設けられている。又、反映される仕組みが整えられている。	○	全職員が話しやすい雰囲気作りをしたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化に対応出来る様職員で話し合い、調整している。	○	利用者本位の暮らしを支援できる様継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や配置換え等を行う際は詳細に引継ぎを行っている。 又、利用者に与える影響、不安を理解する様努めている。	○	利用者への影響を理解し、移動や配置換え等に配慮していきたい。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、個々の力量や経験に応じた研修を平均的に受講している。受講後は報告書を作成し、伝達研修を行なう等、全職員に周知している。	○	研修受講の際は、日々のケアに支障を来たさない様、配慮している。 職員の室の向上に向けた育成に引続き取り組んでいきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や連携の機会は設けられている。 同業者との交流、連携を通じ、日々のサービスの向上に具体的に取り組んでいる。	○	同業者との交流、連携の機会を通し職員育成につながられる様に努めていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意見を聞きながら休憩時間を取る様になっている。	○	利用者に接することが多いので、なかなか難しい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断を実施し、職員の健康を保つ体制を整えている。 労働基準法に則って、職員の労働条件を整えている。	○	職員のやりがいや向上心が持てる職場環境となる様、努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用希望者や家族と面談をする等、直接話しを聞く機会を設け、信頼関係を築くことを意識しながら対応している。	○ これからも家族の思い、希望、ニーズを把握する様、努めていきたい。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者や家族にニーズに対し、何が必要かを見極め柔軟に対応するよう努めている。対応できないことに対しては検討している。	○ 他のサービス機関に移行する場合も連携を図り支援するように取り組みたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の視点に立った支援を心がけている、利用者家族と充分話し合い双方の意向にそったサービスとなるよう調整している	○ 利用者、家族、双方の意向にそう様十分に話し合いを行い、努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽を共感し理解するように努めている。 利用者には得意分野で力を発揮してもらい、共同生活をしている。	○ 今後も引き続き、努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を伝え、職員、家族が情報を共有し、利用者を共に支えられる様取り組んでいる。	○	家族と、情報交換をし、家族の介護の仕方を聞き、利用者を共に支える関係作りをしたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族がホームに来やすい様働きかけている。利用者、家族、双方への思いを把握できる様努めている。	○	家族の役割を奪わない様配慮し、より良い関係作りをしていきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙、訪問等、これまで関わってきた人との交流を継続できる様支援している。	○	毎日の生活やコミュニケーションの中からたくさん情報を収集できる様にしたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の人間関係を把握し、孤立しないでたすけあい、支え合って暮らしていける関係作りに努めている。	○	より良い関係作りに努めていきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も家族の相談に応じる等、利用者、家族との関係を継続する様努めている。	○	サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を示している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望・意向を把握する様努めている。 必要に応じ、家族等から情報収集行っている。	○	今後も職員は利用者の思い、希望意向を把握する様努めたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者コミュニケーションを測り生活歴ライフスタイル、個性、価値観等を把握する様努めている。 家族等からも情報収集を行っている。	○	これまでの地域との関わりなども把握できる様努めたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1日の暮らし方や生活リズムを把握し対応する様努めている。 利用者の出来ること、わかることを把握している。	○	今後も暮らし方や生活リズムを把握しケアしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で十分に話し合い、利用者本位の個別具体的なものとなっている。	○	全職で話し合い、利用者、家族の意見を取り入れ作成していきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間終了後は見直しを行っている。実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化や利用者や家族等の希望の変化時には見直しを行っている。	○	常に観察を行い家族等から再アセスメントをとる等、見直す様努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容は全職員が共有できる様になっている。 介護計画にそって実践しているか記録されているので見直し時、活かせる様にしている。	○	引続き、介護計画にそって実践し見直しに活かせる様にしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ、利用者、家族、地域からのニーズに応じ、新規事業の実施を行っている。	○	今後も新規事業や自宅サービスについて開発、検討し、支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生いい気、ボランティア等に協力は呼びかけている。 警察、消防署等からの協力を得られる様働きかけを行っている。	○	今後も地域資源との協働に取り組みたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者と相談し、他のサービスを利用するための支援はほとんど行っていない。	○	今後、事業所で検討していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の利用の必要な方の入所がまだない。	○	地域包括支援センターと連携できる様努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握している。家族や利用者が希望する医療機関を受診できるよう支援している。いつでも医療機関に相談できる。	○	今後も医療機関との連携を密に図り適切な医療を受けられるよう支援していきたい。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が指示や助言をしてくれている。	○	今後も継続していきたい。
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関と連携をとり24時間いつでも気軽に相談できる。	○	今後も継続していきたい。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療と情報交換し、早期退院できるよう、努めている。退院について家族も含め話し合う様、取り組んでいる。	○	今後も医療機関と連携を図り利用者が安心して過ごせる様支援したい。
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応を明確にし、急変時の対応について家族、医療機関と話し合っている。	○	今後も継続していきたい。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所内で対応できること、困難なことを話し合っている。	○	医療機関や家族との連携を図りながら支援していく。 グループ住宅さわやか ユニット2

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者がうけるダメージを理解し家族等の協力が得られる様、働きかけダメージを最小限とする。		移動する場合は移行先へ情報提供を行っていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介助時は利用者の羞恥心、プライバシーに配慮している。 個人情報保護法について理解し他者にもれない様、配慮している。	○	常に人生の先輩であることを、全職員が自覚し接する様、心がけていきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の関わりや家族からの情報を聞き希望、関心、嗜好を把握する様努めている。利用者が自己決定できる様、支援している。	○	自己決定できる様、日々コミュニケーションを密にしている。意思表示できない利用者へも希望等を把握できる様支援していきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望を優先する様心がけている。 利用者の言動を急かさないう様努めている。	○	利用者、優先に努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者行きつけの理、美容店を利用できる様努めている。 おしゃれをすることで生き生きとした生活ができる様にサポートするよう努めている。	○	今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考え献立を立てている。苦手なものは食べられるものに替えている。調理の準備はできる範囲で一緒行うよう努めている。	○	食後は利用者もくつろいでいるので職員が後片付けしている。 できるところはやって頂く様にしたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握し一人ひとりの状況に合わせて楽しめるよう、支援している。	○	たばこ、お酒を飲む利用者が今までいませんでした。いる場合は考え安全確保に努めていきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し声かけをし誘導している。自立に向けおむつ使用を検討している。羞恥心、プライバシーに配慮している。	○	記録は排便だけで、排尿にかんしては把握しきれていない。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は施設で決めている。 羞恥心、プライバシーに配慮している。	○	入浴日、時間は施設側の都合になってしまっていることが多い。 利用者の意向も取り入れるよう努めたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握している。眠剤の服用は、本人、家族、医療機関と相談している。	○	生活リズムを整えるよう努めていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時、生活歴や希望を聞き入れ入所後、コミュニケーションの中から情報を取り入れ、役割や楽しみを探す様努めている。	○	楽しい生活ができる様に支援していきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族と相談のうえ、金銭管理を行えるよう支援している。	○	金銭管理のできない利用者は、職員が支払等行っているため、自分で行って頂く様配慮したい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体状況にあわせ希望にそって支援している。 外出したがない利用者が多い。	○	気分転換、楽しみをもつことのできる様戸外に出かける様支援したい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望にそうよう家族と相談しながら実現にむけ支援している。	○	できるだけ希望にそう様努めていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にかけてたり、出したりできる様支援している。 自室で話ができる様プライバシーに配慮している。	○	ほとんどが電話使用の為、文章を書くという機会が少ないので、これから支援していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、ゆっくり過ごして頂ける様配慮している。 希望があれば宿泊して頂くこともできる様にし、食事の提供も行っている。	○	訪問しやすい雰囲気作りをしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないようにしているが利用者の安全を考慮しやむを得ない場合は家族の同意を得ている。	○	全職員が身体拘束を行わないという姿勢で取り組みたい。 グループ住宅さわやか ユニット2

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠せず、利用者が自由に入出りできるようにしている。 外出時は付き添う様になっている。	○	無断外出時に備え、近隣の協力を得られる様努めたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、昼夜とも利用者の様子を把握し、安全に配慮している。	○	引き継ぎ実施していきたい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管や管理場所に留意している。 利用者の状態にあわせる様になっている。	○	利用者の目に付かない様保管はしているが、日中は鍵はしていないため検討していきたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況で想定される事項は検討している。 事故発生時には報告書を作成している。	○	全職が周知する様取り組みたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルは作成され、いつでも見られる様になっている。 一部職員が応急手当、救急救命の研修を受講している。	○	全職員が研修を受講できる様体制をとり、定期的に訓練を行う様取り組みたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	適切な避難誘導が行える様定期的な訓練は行っている。 災害発生時に備え食、飲物は用意している。	○	自衛防災組織図が作成されているので緊急時対応する。 近隣の協力が得られる様取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者1人ひとりに起こり得るリスクを職員全体で考え把握する様努めている。その対応策も話し合っている。	○	今後もリスク、対応策、状況変化について、家族に説明するよう取り組みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の持病やアレルギーの有無は、入所時把握できる様にしている。 変化や異変は記録し、全職員で共有し主治医に相談する様の対応を行っている。	○	利用者の異変を見落とさないよう、顔色や様子に注意する様今後も徹底していききたい。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の苦するの内容を把握できる様になっている。飲み忘れや誤薬が内容に努めている。薬の変更については申し送り全職員に周知している。	○	今後も利用者1人ひとりが使用している薬を把握し誤薬がない様支援していききたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日の食事や排泄を理解し、自然排便を促す工夫をしているが、何日か続く場合は下剤を処方してもらっている。	○	便秘予防の為 飲食物の工夫、身体を動かす働きかけをしていききたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の手入れや必要性は職員は理解しているが、毎食後、個別には行っておらず、声掛けのみの支援になっている。	○	一人ひとりの能力に応じた支援を行える様取り組みたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、把握している。献立や栄養状況等について、栄養士等の専門家から指導、助言を得られる体制とはなっていない。	○	献立や栄養状況について、もう少し見直し改善していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	対応マニュアルを作成し、全職員がいつでも見れるようにしている。 朝礼時、感染症について話し合い、最新の情報を収集している。	○	今後も最新の情報を収集し、利用者家族等にも周知していきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の清潔を保持するように努めている。 新鮮で安全な食材を使用するよう努めている。	○	2日に一度の買い物のため在庫はあまりないため、在庫表等はない。 今後、検討していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠しておらず、花などを育て、雰囲気作りをしている。	○	入りやすい雰囲気作りに努めていきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明、室内の明るさには配慮している。 季節感を感じることができる工夫を行っている。	○	難聴の利用者が多いため、テレビの音量が高めになっている事が多いので不快と感じる利用者もいる。 今後調整して、快適に過ごせる様努めたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で囲らなできるスペースが確保されている。	○	1人で過ごせる様、工夫しているがもう少し改善していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前から愛用していたものを持ってき てもらう様、家族に積極的に働きかけて いる。利用者、家族、職員と相談し、居 心地のよい空間づくりに努めている。	○	自宅にいる様な環境作りに今後も取 組んでいきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがない よう換気に努め、温度調節は、外気温と 大きな差がないよう配慮し、利用者の 状況に応じてこまめに行っている	事業所内の換気を定期的に行っている。 事業所内に温・湿度計を設置し温・湿 度管理を行っている。	○	利用者一人ひとりの希望があるため 全員が満足しているとは言えない。 今後、全員が満足して頂ける様努 めていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を 活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう要所に手すりを 設置している。転倒につながる原因 はないか注意している。	○	身体状況に応じ環境改善の工夫が できる体制を強化していきたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、 混乱や失敗を防ぎ、自立して暮ら せるように工夫している	必要な場合には、個々に合わせた 表示をつける様にしている。	○	利用者の混乱を招く環境の要因に 対して改善につなげられる様今後 も努めていきたい。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動 できるように活かしている	プランターに利用者と職員で季節 の植物を育てている。利用者は自 室で好きな花を育てている。	○	敷地内に庭がない為、プランター で植物を育てて楽しんで頂く様 今後も支援していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)